第6回杉並区立杉並第五小学校・若杉小学校統合協議会（建設部会）議事録（要旨）

会議名	第6回杉並区立杉並第五小学校・若杉小学校統合協議会（建設部会）
日　時	平成18年9月11日（月）午後3時00分～午後4時50分
場　所	杉並第五小学校 多目的室
出席者	統合協議会建設部会委員25名（委員3名欠席）
事務局	11名（学校適正配置担当部長、学校適正配置担当課長、営繕課長、学校適正配置担当係長、校舎改築担当係長、営繕係長、指導室統括指導主事、担当職員4名）
傍聴者	5名
次　第	1　開会 2　資料説明（学校適正配置担当課長、指導室統括指導主事） 3　質疑応答 4　統合新校の教育方針について（両校長） 5　学校の屋上緑化について(小林委員) 6　意見交換 7　事務局からの連絡事項 8　閉会
資　料	資料1　杉五・若杉統合協議会建設検討部会意見・要望 資料2　統合協議会開催日程 資料3　オープンスペースアンケート（平成18年度実施分） 資料4　オープンスペースアンケート（平成16年度実施分） 資料5　広報すぎなみ（平成18年6月1日号） 資料6　オープンタイプの普通教室等について 資料7　学校の屋上緑化について

１　開会

２　資料説明

[資料１：杉五・若杉統合協議会建設検討部会　意見・要望　※事前送付資料]

前回までに出された意見を項目別にまとめたものです。

[資料２：改築検討協議会開催日程（予定）※事前送付資料]

現在の進行状況、建設検討部会の議論の方針に合わせて、部会の開催日程を修正したものです。

[資料３：オープンスペースアンケート（平成１８年度実施分）※事前送付資料]

平成１８年８月にオープンスペースについて経験のある学校長からアンケートをとったものです。

[資料４：オープンスペースアンケート（平成１６年度実施分）※事前送付資料]

平成１６年度の方南小改築検討協議会、高井戸小改築検討協議会の際に資料として作成したものです。オープンスペースの各学校（杉並第十小、杉並第四小、桃井第五小、永福南小）についてアンケートをとっています。

[資料５：広報すぎなみ（平成１８年６月１日号）]

区長の学校施設づくりについての考え方が掲載されています。

[資料６：オープンタイプの普通教室等について]

これは区教育委員会指導室による、オープンスペースについての考え方です。

３　質疑応答

＜委員＞

資料には「オープンタイプの普通教室について課題が提示されてきた」とありますが、これの解決策はありますか。

＜統括指導主事＞

オープンタイプの場合には（隣の教室の）声の遮断は難しいが、逆に教師が必要以上に大声を出すことが無くなったり、子供達が周囲の状況を考えながら行動するようになりました。児童によっては学習に集中することが出来ないということですが、現場の先生に伺うと、これは慣れの問題であるということでした。教師の指導法によって解決できるのではないかと考えております。

＜学識経験者＞

建築的な立場から補足をさせていただきます。従来のオープンタイプの教室は、吸音性に関しては無頓着でした。音に関して、苦情・要望が多かったのは事実です。しかし、天井・壁に適切な吸音設計をすることによって、相当静かな環境になるという実績がこの数年で出てきました。この点に関しては十分注意して、設計をしてほしいと思っています。

＜委員＞

音楽室等の比較的大きな音が出る特別教室については、オープンタイプでない方が望ましいのではないですか。

＜統括指導主事＞

技術的ではなく内容的な面からお答えしますと、特別教室についてはクローズにしていただいた方が教育効果が非常に高まると思っております。

＜委員＞

資料２「統合協議会開催日程」について質問ですが、この資料でいくと第１０回でコンセプトを検討し、第１２回で設計方針案を決めるということですが、この間に敷地の現況把握・解析をどのように行い。どう設計案に生かされるのでしょうか。

＜学校適正配置担当課長＞

これから地盤調査や測量を行います。

＜部会長＞

こちらの学校（杉並第五小学校）は市街地の中ということで、周辺に住宅が集まっているのですが、そういった環境の中で小学校を組み立てるのかについては、航空写真から周辺道路や

住宅との関係を整理しながら設計案を作っていっても良いのではないかと感じました。難しくはないと思いますので、いきなりプランニングに入る前に皆さんと確認していきたいと思います。

＜委員＞

冷房に関しては入れないというのが区の方針であり、これは変わらないと考えて宜しいでしょうか。

＜学校適正配置担当課長＞

極力、冷やすのではなく涼しさを呼び込むような工夫をしていきたいと考えております。

＜委員＞

本日の資料に、冷房に関する区長の考え方が掲載されていますが、暑いのは１、２週間だけではないと思います。どんどん気温が上がってきており、１００年という単位ではエコスクールという考え方だけでは対処しきれない事態になることを心配しています。それから、沖縄ではないということですが、沖縄は東京より明らかに気温は低いです。夏休みを長くしたらとのことですが、学力低下が言われている中で、逆に夏休み期間を使って学習を行う機会が増えてくるのではないでしょうか。

暑さに対処しきれない時のために、冷房は設置し、原則として使わないということにしていただきたいと思います。

＜学識経験者＞

先週のテレビ番組で、「マンションの壁面を緑化したら冷房を使わなくて済むようになった」という生活を紹介する番組をやっていました。しかし、極めて暑い時に緑化だけで涼しくなるのかというと、これはどうかなと思います。むしろ、緑化したために冷房温度を低く設定する必要が無くなったということはあると思います。私は冷房をとるか緑化をとるか、どちらかということではないと思います。冷房に関しましては、区外に住んでいる者としては、皆様が選ばれた区長の方針ということもありますので、会全体の意見とするのか、そういう意見もあったとするのか考える必要があるかもしれません。

＜部会長＞

板橋区の大東文化大学では、市街地にある校舎を建て替える事業の中で、環境に配慮した工

夫を盛り込んだ学校です。多数の環境技術の中でとりわけ感動しましたのは、クールチューブといいまして暑い外気を取り込み、地下を通すと年中安定した地下温度で冷やされた空気が出てきます。また、地中に埋まっている杭の中に水の通る管が入っています。夏は冷やされた水が、冬は温められた水が出てくる。これを電気の技術と合わせまして空気に与えて教室に循環させるというものです。どこにお金がかかるかというと、教室の床を二重にしなければいけない。冷やされた空気が床を通って、壁に設けられた出口から非常に緩やかに吹き出してきます。そこから上がっていった空気が廊下の吸い込み口から出ていって、廊下の上部にある煙突状の部分から外へ出ます。これは冷房ではなく換気に涼しい風を乗せるという考え方ですね。

私は新しい学校も冷房をつけるのではなく、なんとか換気に涼しい風を乗せることができれば良いと思っておりました。大学ではぴたっと閉めた状態で、涼しい換気が出来ていましたので外が３５度、室内は２８度でした。冷房でガンガン冷やされるより学習効果が上がるのではないか、心地よく優しい換気でこういうものが実現できたら良いなと感じましたのでこの場でご紹介させていただきます。

＜委員＞

ニュースでマイクロミストの紹介をしていました。非常に細かい霧で蒸発潜熱の効果で２～３度温度を下げるそうです。費用はクーラーの１０分の１と言っておりました。ああいうのは実験段階でしょうが、専門的なお立場ではどうでしょうか。

＜学識経験者＞

私は専門ではないのですが、まず、クールチューブは手がけたことがありまして、これは効果があると思います。ただ、イニシャルコストはダクト、二重床、どこから取り出すといったことがかなりかかります。また、平屋建てを建築した時には屋上に散水して、そこから冷やす。これも結構効果があったと思います。しかし、２～４階建てということになりますと水を撒くことによって全ての教室を２８度以下に抑えられるのかどうか、そこは自信がございません。研究してみる価値はあると思います。

どうでしょう、ここで冷房の可否について押し問答しても前に進みませんので、そういう強い意見があったということをテイクノートしていただいたらどうでしょうか。夏の暑さもそうですが、冬に窓を閉じておきますと、二酸化炭素濃度が３０００ｐｐｍ位まで汚れてしまうので適切な換気をするとか、冬は太陽高度が低くて窓際は直射日光に当たって暑いけれど、廊下・オープンスペースは薄寒くて温度分布が悪いですとか、光環境・温度環境や音環境を十分適切に配慮した設計がなされてこなかったと感じるんです。冷房是非論を超えて、子供達が本当に

快適に勉強できる環境作りがなされていくよう要望したいと思います。

＜学校適正配置担当部長＞

個人的な感想を申し上げますけれども、区長の「いいメール」の主旨は、確かに冷房を入れれば早いけれども、我々はまだやらなければいけない事があるのではないかとおっしゃっているんですね。今までに出たご意見や、区の「風とみどりの施設づくり」で打ち出されたものをやってみる、と。一方で色々な教育課題がございます。学力低下にどう取り組むのか等といった課題と併せて、我々のやるべき事はまだあるという段階だと思います。

＜委員＞

区議会便りを読みましたら、「教室にクーラーを入れろ」と質問している議員がいました。これはにべも無く断られているんですけれども、その質問の中で学校保健法というのがありまして、健康で快適な学校環境を目指し夏は３０度以下、最も望ましいのは２５～２８度としているというんですが、こういう法律はあるんですか。それを区長は守らないんですか。

＜学校適正配置担当部長＞

一定の基準がありますが、常時確保するようにと定められているのは最低気温ですね。暑い時に何度まで下げるという定めはありません。

＜委員＞

教科書に出てくる吉田兼好ですか、「家を造るには夏を旨とせよ、冬は如何様にも住まる。」と言っていて、昔から伝わっている考え方だと思うんですね。今はコンクリートの中にいるわけですから、冬は手がかじかむということもあるでしょうが、夏はやはり暑いです。百年の学校をつくるのであれば、今は冷房を付けられないけれど配管を通しておくとか今後に設置できる余地を残しておく必要があると思います。

＜委員＞

１～２度下がっただけでは意味がないと思うんですね。娘が通っている高校は壁面緑化に失敗し、屋上に反射板を設置したら２度ほど下がったらしいんですが、校長も毎年都教委に「冷房を設置していただきたい」と要望を出しているそうです。私立は冷房を完備していますが、私立から派遣で来た先生が比較をしましたら、明らかに学習効率が違うということだったそうです。緑化等で少し温度が下がっても、子供達にはなんのプラスにもならないと思いますので、

快適に勉強できる環境というものをしっかりと考えてほしいと思いました。

それと、オープンタイプの教室について説明がありましたが、ほとんどの学校にはありません。まず、オープンスペースありきで、これをしないと先生方の力量も上がらないというように聞こえるんです。オープンスペースが無い学校の先生方にも十分な力量を発揮していただかないといけませんのでご指導ください。

＜統括指導主事＞

ありがとうございました、その通りだと思います。現時点での教員の力量形成ということでは、杉並区は研修に力を入れております。従来タイプの学校でも十分な力量が発揮できるよう指導して参ります。

＜学校適正配置担当部長＞

区長の「いいメール」をご覧いただいた通りですけれども、エアコンの問題に議論が集中するのもわかるんですけれども、全国的に見てどうかということもあると思うんですね。その中で２３区の中にも色々な考え方がありますが、これをお読みいただければ「こういう考え方もあるな」と思っていただけるのではないかと感じます。

＜委員＞

長い目で見ると、地球が温暖化していく中で環境を守っていかなければなりません。やはり、屋上や壁面の緑化は必要だと思います。それと平行して、冷房が必要になることも想定しておくことも大切ではないでしょうか。今の校舎も建てた時には冷房は無かった。しかし、その後職員室や特別教室に徐々に冷房を入れていった結果、室外機は校庭側にあって前を通ると熱風が出ている状態です。後付けだから良くない状況も生まれているわけで、今の技術でどこまで見通せるかわかりませんが、将来を良く考えて進めていくのがいいと思います。

＜委員＞

専門家の皆様の意見を伺いますと、「暑くてたまらないよ」とおっしゃっているように聞こえます。また、光化学スモッグ注意報が出て、窓が開けられない状況になることも考えられます。その時に窓が締め切りの状態でどうなるのか疑問に思っております。エコ的な工夫をしたけれども３０数度から下がらない、あるいは夏休みの相当期間を学習で使うようになった時のことを考え、区長は努力はしたけれども達しなかった時には冷房設置もやむを得ないと、言外におっしゃっているんだと理解しまして、もしもの時にはすぐに冷房を付けられる設計をお願いし

ます。

＜委員＞

クーラーに関して重要な意見が沢山出ましたので、これからは具体的にどの範囲にはクーラーが入るのかとか、具体的な話に進んだ段階でもう一度議論した方がいいのではないかと思います。

＜部会長＞

そうですね、これは避けて通れない重要な問題ですから、もう少し議論が進んだ段階で事務局から具体的な提案をいただきたいと思います。

＜学識経験者＞

定性的な議論だけでなく、定量的にはどうなのか。温度に関するデータを録っていれば、例えば「３階の南向きの部屋はこんなに暑いが、１階は何度違う」というのは現況の分析になる。あるいは「風とみどりの施設」とは何か。風はどの方向から吹いてくるのか、その先には大きな緑地があって涼しい風が来るのか、周辺に水はあるのか。客観的な現況を押さえませんと、「クーラーは必要だ」だけではどう基本設計に結びつくのかわからないんですね。

また、卒業生の思いを反映させたいという意見がありましたが、この段階でヒアリングをしませんとこのまま進んでしまいます。定量的・具体的な状況把握が必要だと思います。

＜部会長＞

１１月の会には改築基本方針ということで、重要な柱立てをしなければなりません。冒頭に事務局・設計陣の方々にこの学校をどう捉え、どう解釈して今後につなげようとしているのか是非、ご説明をお願いしたいと申し上げましたが、再度確認して資料としてご提出いただければと思います。

４　統合新校の教育方針について（両校長）

このことにつきましては、すでに８月２８日の統合協議会で説明をさせていただき、質疑もいただいているところですが、本年４月より両校の教員が定期的に集まりまして、統合新校はどのような学校像があって、どういう教育方針があって、どう教育目標や重点施策を考えていくのかということを検討してきました。

通常、公立学校の教育方針と申しますと、教育目標と重点施策を教育課程として示して各学

校の方針を明らかにするのが恒です。ただ、新校は杉並区で初めての統合校ですし、杉五・若杉両校への様々な思いもございますので、学校像と教育理念を文書で起こして、皆様方からも意見を頂戴する形にいたしました。

具体的な学校像としましては、当然、両校の良さを生かし継承してまいりますが、杉並区が教育ビジョンで示す４つの施策（①学力・体力の向上を図ると共に豊かな人間性を育てる。②学校力の向上により、信頼される学校づくりを進める。③人間力を育成し、活力ある地域づくりを進める。④スポーツ・文化活動を通した豊かな地域づくりを進める。）を十分に踏まえていかなければならないと考えました。そこで、区の教育課題の中から健康教育、キャリア教育、英語活動について重点的に取り組んでいく方針を立てました。指導方法としても少人数、５年生以上での教科担任制が必要になってくると思われます。新校は、子どもたちにとっては毎日通うのが楽しい夢のある学校、教職員にとっては各自の力を十二分に発揮できる学校、保護者にとっては安心して子どもを任せられる学校、そして両方の地域にとって誇れる学校になっていくことが望まれます。また、夜間、土日曜は地域と様々な係わりを持っていかなくてはいけません。勿論、学校も常に教育内容をきちんと説明して開いていく、保護者・地域と共に学校をつくっていくという姿勢が何より必要です。

新校のポリシーをキーワードでいえば「共生」であると考えています。新校は様々な人々が共に学ぶ、地域コミュニティーのハードの中心としてあるべきです。そこを使いまして社会教育も行えますし、子どもの放課後の居場所作りや地域スポーツクラブの活動も考えられます。そんな場作りを進める中で、基礎学力の定着、心の教育、それを支える心と体の健康づくりを大きな柱として新校の教育を進めていきたいと思います。

教育目標は３つ、教育目標を達成するための重点施策は１７あります。習熟度別学習や高学年での教科担任制等については、オープンスペースなどを使って有効な学習を進めたいと考えます。運動面に関しては、全天候性のグラウンド、夜間照明、学校の周りを走れるスペース、稼動床式のプール等を整備していただきたいですとか、ミニコンサートができる階段式の扇型の音楽室、木・竹を使った廊下、カウンセリングルーム、校内美術館構想（廊下の出窓に作品が展示できる）、和の文化を体験できる空間、個別学習室の設置、地域支援の窓口となるスペース設置といった要望をここに書かせていただきました。

まだまだラフなスケッチですが、本建設部会には私の「想い」としてご説明させていただきました。

（委員）

大変良いことだと思います。只今いただいたお話の中で、やはり冷房というのはあった方が

いいんでしょうか。

（校長）

基本的にこの構想は区の方針に則る形で作っておりますので、普通教室には冷房は設置しないという想定の中で、特別教室やランチルームには冷房を入れて夏季の補習等にも対応していくことを考えて作りました。

５　学校の屋上緑化について（小林委員）[資料７：学校の屋外緑化について]

・ 施設をつくる時には、建築物とあわせて、その屋外の設計もよく考えないと全体としてよい施設になりません。
・ 「ビオトープ」「芝生化」「太陽光発電」などをただつくればエコスクールになるのではありません。つくったあとの管理と活用の仕方をよく検討してから設計を行う必要があります。そのためには地域生態系や、学校、地域の環境に関する取り組みを把握する必要があります。
・ １００年間使える緑地をつくるためには、維持・管理がきわめて重要であり、そのためには学校で行われている教育プログラムや、地域の取組といかに連携させるかが鍵になります。

６　意見交換

＜委員＞

オープンスペースのことですが、今はニーズに応じた教育を行っておりますし、今後この傾向が続くと思います。少人数、習熟度別、課題、選択授業などです。一斉授業というのは子供同士の学び合いがありますので、それはとても大切です。先生が教えるより子供同士で教え合った方がストンと理解するということがあります。

最近、じっとして先生の話を聞くのが苦手な子供が増えてきています。自分の言葉で自分の考えを言うことが苦手な子供も増えています。人間関係が薄くなる中で、子供同士の学び合いや担任同士の協力が出来やすい空間が必要ではないでしょうか。可動性のある、凸凹のある空間がつくれるようになるといいなと思います。

＜委員＞

これから百年先を見通した教育というものを考える時、個に応じた教育というものが大切に

なると思います。中学校でもちょっとした小さい空間が現実として無いということで困っています。個に応じた施設をつくっていくことがこれからの大きなポイントになるのではないかと感じています。

それから、小中、中高の連携が益々重要になってくると思います。校舎を造る上でこれも重要な視点になるのではないか。また、防災の拠点、地域との連携の拠点としての施設づくりというのも百年を見越すととても大切ではないかなと思います。

＜委員＞

子供が小学１年生の時に１２人でスタートし、ずっと少人数で過ごしてきたので、いきなり大人数になることや開かれた教室に移ることにとても不安があります。新しい学校に期待もしているし楽しみなんだけれども、子供も親も教師も慣れるのに時間がかかるのではないかという不安ばかりが大きくなってしまいます。

＜委員＞

大丈夫だと思います。若杉小の子供達は今の校舎のまま、杉五小の子供達と２年間一緒に過ごしてから新校に来るのですし、先生方も徐々に慣らしていくように配慮できると思います。親の不安は残っても先生にその気持ちを伝え、良い方向にいくように出来るのではないでしょうか。

＜委員＞

杉小Ｐ協では、校庭を芝生化した学校に状況を聞いているのですが、やはり管理が大変であるとか養生期間をとらなければならないので、子供達が校庭を使えない期間が長いという意見がありました。草地では駄目なのかという声もあるので、次回にでもご説明をいただけないでしょうか。保護者としては、あまり導入してほしくはないなっていう思いがあるようです。

＜委員＞

新校にあらゆるものを持ち込もうとすると無理があるし、新しい校舎が建っても若杉小の校舎も残りますし、天沼中も近くにあります。近隣の施設との有機的な連携によって補完することも出来ると思います。区長は「統合後に生まれた跡地の中に宿泊施設を入れて団体教育するのはどうか」とおっしゃっているようですね。そうなると個の教育とは別に、子供達が教え合えるような団体教育も体験させることも出来るわけで、施設の連携をすることも有効ではないかと思います。

＜部会長＞

今日、委員からいただいた様々な意見を事務局でまとめていただいて、基本方針に向かっていくつかの柱立てを行い提出していただきたいと思います。

そして、その柱を踏まえまして引き続きご意見・ご要望をいただきながら、まとめを行いたいと思います。

７　事務局からの連絡事項

８　閉会